岩手 県技術士会 部会・委員会活動報告

活動名	平成 24 年度 現場見学会「東北の地熱発電」 (CPD 番号 24-11)
主催	主催 (公社) 日本技術士会東北本部応用理学部会 共催 岩手県技術士会応用理学部会 (一社) 岩手県地質調査業協会 後援 (一社) 岩手県土木技術センター
日 時	平成 24 年 11 月 8 日 (木) 12:30 ~17:00 11 月 9 日 (金) 8:00~18:00
場所	岩手山・八幡平周辺、松川地熱発電所 (八幡平市)、地熱エンジニアリング㈱ (滝 沢村)
参加人数等	8日:13名(本部会員:9名、岩手県技術士会会員:0名、技術士外:4名) 9日:13名(本部会員:9名、岩手県技術士会会員:2名、技術士外:2名) *遠くは、千葉県、神奈川県からの参加もあった。

活動内容

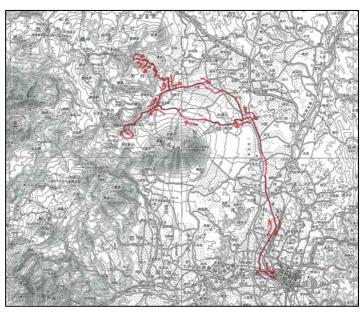
平成 24 年 11 月 8 日から 9 日にかけて、テーマを「東北の地熱発電」とした現場見学会を、 (公社)日本技術士会東北本部応用理学部会との共催で実施した。見学会の概要は、以下の 3 項目である。

- ①岩手県八幡平市の松川地熱発電所および掘削現場を訪問し、地熱発電所の状況や地熱掘削 状況を見学する。
- ②地熱調査業者の訪問し、坑井調査方法(地質、地化学、検層など)の現場技術を見学する。
- ③岩手山~八幡平の火山地形などの眺望、岩手山火山噴出物(焼走り溶岩)や松川玄武岩などの露頭観察を行う。

$1.11/8 (12:30\sim17:00)$

11/8 は、岩手山パノラマラインで八幡平火山群を眺望した後、松川大橋にて松川地熱発電所と変質帯の露頭を眺望・観察した。その後、松川地熱発電所と掘削現場を眺めながら、松川玄武岩・渓谷を眺望した。最後に、八幡平地すべり地帯を、松尾鉱山跡および御在所にて、眺望した。



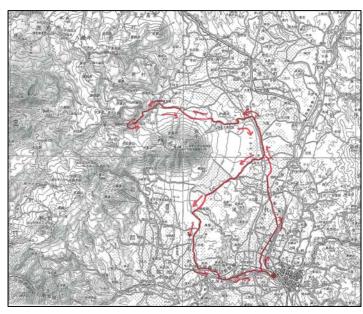


この日の夜は、盛岡市内にて懇親会を開催した。9日に訪問する松川地熱発電所と地熱調査企業の地熱エンジニアリング㈱の案内者の方々も参加して頂いた。会場は狭かったが、かえって親密感が増し、非常に楽しく交流を深めることができた。遠くは、千葉県・神奈川県からの参加者もあったが、初対面とは思えない、和気藹々とした懇親会であった。

岩 手 県 技 術 士 会 部 会 委員会 活 動 報 告

2.11/9 (8:00~19:30)





11/9 の午前中は、松川地熱発電所を訪問し、加藤修氏(東北水力地熱㈱)より松川地熱地域の説明を受けた後、同氏の案内のもと、地熱発電所内および掘削現場(蒸気生産井 M-18 を掘削中)を見学した。

昼食に松川荘にていわな定食を食した後、岩手山を回りながら、焼走り溶岩流を見学、春木場より岩手山を眺望後、地熱エンジニアリング㈱へ向かった。地熱エンジニアリング㈱は、長年地熱調査・掘削を手がけている企業であり、今回の松川地熱発電所で掘削している蒸気生産井 M-18 の掘削と調査も担当している。地熱エンジニアリング㈱では、梶原竜哉氏と赤塚貴史氏より地熱調査方法に関する説明を受け、その後、地質関係、地化学関係、物理計測関係の機器類を見学した。

3. 雑感

今回の企画は、3.11 東日本大震災以降、注目を浴びている地熱発電関連を見学するということを目的として開催したが、タイミング良く、地熱井の掘削現場も見学することができた。また、普段は入ることのできない地熱発電所の内部も見学することができ、地熱発電所の状況を知る上では非常に良かったと思われる。掘削現場では 2,000m を掘削できるリグが設置されており、参加者一同、その規模に驚嘆した次第である。また、地熱調査の最先端の技術や機器を見学し、各種調査のきめ細やかさなどに驚くと共に、1 民間企業でこのような機器類を保持すると共に、技術力を持っていることには驚かされた。

季節柄山は非常に寒く、あいにくの雨模様で火山地形は十分に眺望できたとは言えなかったが、非常に充実した2日間の現場見学会であったと思う。

お忙しい中、現地をご案内頂いた東北水力地熱㈱の加藤氏、地熱エンジニアリング㈱の梶原氏と赤塚氏に感謝致します。

<黒墨秀行記>

岩 手 県 技 術 士 会 部 会・委員会 活 動 報 告





雨の中、松川大橋で松川地熱発電所を見る 八幡平地すべり (アスピーテラインゲートにて) 初日の参加者





松川地熱発電所





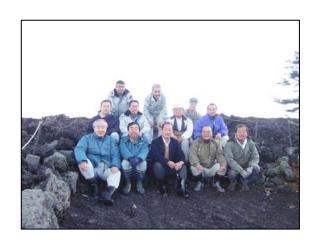
松川地熱発電所にて坑口装置を見学する(左)、地上設備を見学する(右)

岩 手 県 技 術 士 会 部 会・委員会 活 動 報 告





松川地熱発電所内の掘削現場(蒸気生産井 M-18)







地熱エンジニアリング㈱駐車場にて 2日目の参加者





地熱調査の説明をする赤塚氏(左)と地熱井のスライムを観察する参加者(右) 地熱エンジニアリング㈱にて